

牛久：学校周辺に見る自然

第6号 ひたち野西近隣公園

2015年10月26日発行

＜動物のすみかをしらべよう ～秋のみずべ公園 ⑥トンボの仲間＞

9月24、29日、ひたち野うしく小3年生とのみずべ公園。テーマは「動物のすみかをしらべよう」。今回は、トンボの仲間。みずべ公園ではいろいろな種類が見られますが、この時期のトンボといえばやはり「赤とんぼ」でしょう。中でも次の3種類は一番多く見かけます。今回はたまたま3種類とも、オス、メス両方見つけられました。種類ごとの違い、オスとメスの違い、見分けられますか？



ノシメトンボのオス(左)とメス(右)。 はねの先端の黒褐色の帯で他の2種と区別できる。
なお、腹部が暗い赤褐色で黒い部分が発達するのがオス。



ナツアカネのオス(左)とメス(右)。胸部3本の黒い線のうち、まん中の太い線がスパッと直角に断ち切れたようなのがナツアカネ。なお、メスは成熟しても腹部背面が赤くなる程度だが、オスは成熟すると顔も含め全身まっ赤になる。



アキアカネのオス(左)とメス(右)。胸部3本の黒い線のうち、まん中の太い線の先端が尖るように細くなるのがアキアカネ。なお、メスは成熟しても腹部背面が赤くなる程度だが、オスは成熟すると腹部や胸部の腹側が橙赤色になる。

アキアカネはこの10年くらいで激減^{げきげん}していて、苗^{なえ}を育てるときに使う農薬^{のうやく}の影響^{えいきょう}でヤゴ^{しめつ}が死滅したためではないかといわれていました。牛久市など茨城県南部ではそうでもないように感じていましたが、都道府県^{ちいさ}や地域^{ちいき}によってもだいぶ差があるようです。トンボの大部分、約85%はヤゴ^{ようちゆう}（幼虫）で冬を越すといわれますが、「赤とんぼ」の仲間は卵^{たまご}で冬を越します。それで秋^{あき}に盛んに交尾^{こうび}し産卵^{さんらん}するわけですね。



みずべ公園では他に、左の**アオイトトンボ**やオオアオイトトンボも卵^{たまご}で冬を越します。複眼^{ふくがん}が青くパッと見てオスかと思いましたが、腹端^{ふくたん}などよく観察^{かんさつ}するとメスでした。トンボの仲間ではこのように、メスなのにオスの特ちょうをもつものがあり、若い時^{せいじゆく}と成熟^{せいじゆく}したときで色が変わったり、コフキトンボのメスのようにはねのもようまで異なるタイプがいたりややこしいですが、逆におもしろくもあります。

アオイトトンボ、オス型のメス。複眼が青くて一見オスのようだが、腹端を見ると産卵管があり、メスだと分かる。



シオカラトンボのオス(左上)とメス(右)、交尾(左下：左側がメス)。



他にこの日よく見られたのは、**シオカラトンボ**でした。オス、メス、そして交尾中^{こうびちゆう}のもの、産卵中^{さんらんちゆう}のものも見られました。シオカラトンボは他の多くのトンボ同様、ヤゴで冬を越します。その他、これによく似た、オオシオカラトンボのオスも見られましたが、どこが違^{ちが}うか見つけてみましょう。違いは一つだけではありませんよ。

【理科支援員：宮内】 オオシオカラトンボのオス→

